

OCC メディカル・カフェ ニュースレター 『賢明な寛容:the wise patience』 第30号

2025年6月 発行『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』

ニュースレター第30号をお届けいたします。今号は樋野先生と代表の大嶋先生が担当します。

『品性のある高貴な心』～『見えざる手の導き』～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稻造記念センター長、恵泉女子学園理事長）



2025年6月14日【『お茶の水メディカル・カフェ in お茶の水クリスチャン・センター（OCC）』13周年記念 Concert & 対談】に出席した。【北海道の帯広、福島県の浪江、栃木県の宇都宮、順天堂大学医学部の学生のご両親】も参加されていた。ゴスペルフォークシンガーの神山みさ氏の『音楽のプレゼント』には、心が温められた。【大嶋重徳牧師先生と対談】の時が与えられた。その後、カフェが行われ、私は、別室で個人面談の時が与えられた。大変貴重な時となった。早速、【今日の大嶋先生との対談は、会場が終始笑いの絶えない楽しい対談になりましたね。終わってカフェに移動するとき『今日もいいお話をしたね～』と喜ばれている方々。-----ありがとうございました。】との励ましのメールを頂いた。

『お茶の水（OCC）メディカル・カフェ』は、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時OCC副理事長であった今は亡き榎原寛先生が始められた。榎原寛先生は79歳でご逝去された（2020年12月24日）。私は、『順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授』時代の2012年5月26日（土）にOCC（お茶の水クリスチャン・センター）での第1回『お茶の水（OCC）メディカル・カフェ』に赴いた。

2005年 順天堂大学の病院で本邦初の『アスベスト・中皮腫外来』の開設となつた。そして、2008年『がん哲学外来』の開設に繋がるとは、自分の思いを超えた『見えざる手の導き』である。『がん哲学=生物学の法則+人間学の法則』&『がん哲学外来=品性のある 強靭で 高貴な心の持ち方』の修練・訓練ともなつた。これが、『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』の心得でもあろう！



インタビュー形式で伝わる樋野先生の魅力

樋野先生は深い。書かれる文章はどこまでも優しく、人の心に寄り添う言葉が続く。そして読者はこの先生に直接に会いたいと思って、御茶ノ水まで来てくださる。しかし先生の講演はあまりにも深すぎて、分からぬ（笑）。時々、全くわからない。ただ個人面談になると、樋野先生から、心の中にあるものを引き出されていった面談者は、やがて号泣することにもなっていく。

問題はパワポを使った講演なのだ。何度も書籍を読み続けている人には馴染のパワーワードが、次々と繰り出される。「なるほど！」と分かるような気もするのだが、そのスピード感で自分だけ置いてかれる気持ちにもなる。また樋野先生ご自身が「自分の話はスルメなのだ」と言われるので、何度も何度も噛んでいくと分かってくるらしいのだが、前回、噛んだのが随分と前なので、思い出すまでに時間がかかる。

そこで13周年を迎えたOCCメディカルカフェで、周年記念のメディカルカフェの際には、講演とは別にインタビュー形式で樋野先生に私がお聞きすることにしていく。最初は「樋野先生、今、おっしゃったことがよくわからないんですけど…」と言うのは、「先生に失礼かな？」と思ったし、「先生のファンが怒り出すんじゃないかな」と不安にもなったけれども、会場の受けは非常に良い。そして何より樋野先生が嬉しそうに笑って、話してくださるのだ。そしてその笑顔が実にかわいい。そして会衆も安心して一緒に笑えることとなる。

ここに樋野先生の魅力がある。質問をぶつけると、先生の心の引き出しに入っている考えが、縦横無尽に出てくる。しかしそれもまた理解不能なワードの時もあるのだけれども、会衆の脳内では少しずつ一つ一つが繋がっていく。そして樋野先生の考えてきた大切なことがストンと音を立てて、自分の心のうちに落ちていくようになる。樋野先生と対談することは、なかなか難しい技なのかもしれないけれど、全国各地で優秀なインタビュワーが育っていくと、さらにメディカルカフェは勢いを増していくのではないだろうか。

お茶の水がん哲学外来・メディカル・カフェ in OCC 代表 大嶋重徳

